

地域間幹線系統 事業評価シート

1 系統の概要

事業者名	系統名	起点	主な経由地	終点
富士急モビリティ株式会社	御殿場線	御殿場駅	裾野駅入口	三島駅
系統キロ程	関係市町			
21.8 km	御殿場市	裾野市	三島市	

2 評価結果

項目	評価のポイント	実績	評価 点数	(参考) 前年度実績
補助基準 (40)	国庫補助基準を満たしたか	—	—	—
運行回数 (10)	運行回数 3 回/日以上を確保したか	5.0 回/日	10	5.0 回/日
輸送量 (30)	実績輸送量15人/日以上を達成したか	24.5 人/日	30	30.0 人/日
実施状況 (40)	効果的に実施されたか	—	—	—
収支率 (20)	収入を確保できているか	62.6 %	20	71.6 %
乗車人員 (20)	乗車人員の実績は計画を上回ったか	実績 66,651 人 計画 59,375 人	20	59,375 人 48,201 人
幹線性・広域性 (20)	幹線としての役割を果たしたか	—	—	—
ネットワーク構成 (10)	他の系統と乗換可能なアクセス拠点 (バス停数) はあるか (詳細別記)	拠点 3 箇所 乗継バス停 8 箇所	10	3 箇所 8 箇所
広域トリップ状況 (10)	市町 (H13. 3. 31現在の市町) 跨ぎの移動はされているか	40.0 %	8	57.0 %

補助基準	40 /40
実施状況	40 /40
幹線性・広域性	18 /20
合計	98 /100

評価指標
A

- A : 幹線として優れた役割を果たしている
 B : 幹線として適した運行となっている
 C : 改善に努力を要する
 D : 見直しの検討を要する

3 説明事項

項目	内容
主な運行目的	J R 御殿場線と並行し、御殿場・裾野・三島の主要駅を繋ぐ地域間幹線である。 沿線には学校・病院・企業が多く存しているため、通学・通院・通勤を中心とする市間を跨ぐ生活移動を補完することを目的に運行。 また、静岡県外を結ぶビジネス移動や観光移動の交通結節点である新幹線三島駅、JR御殿場駅から県内への二次交通として、広域移動の円滑化及び地域内の活性化を図ることを目的とし運行。
ネットワーク 構成の詳細	(拠点) J R 三島駅・・・J R 東海道線、東海道新幹線 J R 岩波駅・・・J R 御殿場線 J R 御殿場駅・・・J R 御殿場線
	(乗継ぎバス停) 東レ入口・・・(富士急シティバス) 光が丘団地方面 萩芙蓉台・・・(富士急シティバス) 芙蓉台及び見晴台方面 平松南・・・(富士急シティバス) 桜堤経由三島駅方面 裾野駅入口・・・J R 裾野駅 裾野市民文化センター・・・(富士急シティバス) 裾野市内循環線 復生病院前・・・(自社) 御殿場特別支援学校方面 かまど中・・・J R 南御殿場駅 森の腰・・・(自社) 御殿場市内系統
公共施設・ 拠点施設との アクセス状況	(バス停から半径500m以内に存在する主な公共・拠点施設) 【官公庁】 富士岡支所、深良支所、静岡県御殿場合同庁舎、裾野市福祉保健会館、三島市民文化会館、裾野市役所、裾野市民文化センター 【病院】御殿場かいせい病院、大橋医院、復生病院 【観光施設】楽寿園、時の栖

4 事業者の取組

項目	内容
増収策	■ 小学校・幼稚園等での、乗合バスの乗り方教室を実施することで、乗合バス利用のきっかけづくりを近隣市町10校にて実施した。 ■ 沿線の学校や企業の通勤時間や近隣バス会社や公共交通機関との接続時間を考慮し、柔軟なダイヤ改正を実施し使いやすい公共交通の構築を行った。 ■ バス停留所の時刻表や配布用時刻表のデザインを変更し、幅広い世代が見やすいものへ変更し、利用促進を図った。 ■ リアルタイム混雑情報提供機能付バスロケーションシステムを導入し、利用しやすいバス環境を整備した。
費用削減策	■ 燃料、オイルその他修繕部品等、車両購入の購入時は富士急グループ全体での一括仕入れ実施や比較購入の徹底を図りコスト削減を実施した。 ■ EVバスを導入し、動力源の転換による経費節減を実施した。 ■ 仕業や勤務シフトの作成等をデジタル化することにより作業効率の向上による人件費の抑制と、効率的な運行を実施し、運送コストの削減を実施した。 ■ 車両運用の見直しによつ効率化を実施し、効率的な運行を実施することで運送コストの削減を行った。

地域間幹線系統 事業評価シート

1 系統の概要

事業者名	系統名	起点	主な経由地	終点
富士急モビリティ株式会社	駿河小山線	御殿場駅	一色	駿河小山駅
系統キロ程	関係市町			
11.8 km	御殿場駅	小山町		

2 評価結果

項目	評価のポイント		実績	評価 点数	(参考) 前年度実績
補助基準 (40)	国庫補助基準を満たしたか		—	—	—
運行回数 (10)	運行回数3回/日以上を確保したか		8.0 回/日	10	8.6 回/日
輸送量 (30)	実績輸送量15人/日以上を達成したか		34.4 人/日	30	31.8 人/日
実施状況 (40)	効果的に実施されたか		—	—	—
収支率 (20)	収入を確保できているか		55.9 %	20	53.4 %
乗車人員 (20)	乗車人員の実績は計画を上回ったか	実績	60,011 人	6	62,400 人
		計画	62,400 人		58,029 人
幹線性・広域性 (20)	幹線としての役割を果たしたか		—	—	—
ネットワーク構成 (10)	他の系統と乗換可能なアクセス拠点（バス停数）はあるか（詳細別記）	拠点	2 箇所	10	2 箇所
		乗継バス停	7 箇所		7 箇所
広域トリップ状況 (10)	市町（H13.3.31現在の市町）跨ぎの移動はされているか		57.3 %	10	67.3 %

補助基準	40 /40
実施状況	26 /40
幹線性・広域性	20 /20
合計	86 /100

評価指標

A

- A：幹線として優れた役割を果たしている
 B：幹線として適した運行となっている
 C：改善に努力を要する
 D：見直しの検討を要する

3 説明事項

項目	内容
主な運行目的	J R御殿場駅とJR駿河小山駅を起終点とし、御殿場市内と小山町内を繋ぐ地域間幹線である。朝夕は小山町内から御殿場駅方面への通学・通勤による生活移動を補完するため、日中は沿線に行政施設やスーパーなどの商業施設が存するため、役場や買い物移動など、地域間の広域的な生活移動を補完することを目的に運行。
ネットワーク 構成の詳細	(拠点) J R 御殿場駅・・・J R 御殿場線
	(乗継ぎバス停) 湯沢・・・(自社) 河口湖・須走方面 上合・・・(自社) 富士霊園方面 上町・・・(自社) 上野方面 佐野川・・・(自社) 富士霊園方面、小山町コミュニティバス 仲町・・・(自社) 小山高校・東山方面 その他18の停留所が小山町デマンドバス乗降ポイントに指定。
公共施設・ 拠点施設との アクセス状況	(バス停から半径500m以内に存在する主な公共・拠点施設) 【公共施設】 郵便局5局、御殿場市役所、小山役場、小山町消防署、御殿場高校・中学校・小学校、コミュニティセンター、御殿場保健センター・救急医療センター、高根小学校・中学校、明倫小学校、小山町ふじみセンター 【拠点施設】 ウェルシア、マミー、セルバ、道の駅ふじおやま、コメリ、丸善食品

4 事業者の取組

項目	内容
増収策	■小学校・幼稚園等での、乗合バスの乗り方教室を実施することで、乗合バス利用のきっかけづくりを近隣市町10校にて実施した。 ■沿線の学校や企業の通勤時間や近隣バス会社や公共交通機関との接続時間を考慮し、柔軟なダイヤ改正を実施し使いやすい公共交通の構築を行った。 ■バス停留所の時刻表や配布用時刻表のデザインを変更し、幅広い世代が見やすいものへ変更し、利用促進を図った。 ■リアルタイム混雑情報提供機能付バスロケーションシステムを導入し、利用しやすいバス環境を整備した。
費用削減策	■燃料、オイルその他修繕部品等、車両購入の購入時は富士急グループ全体での一括仕入れ実施や比較購入の徹底を図りコスト削減を実施した。 ■EVバスを導入し、動力源の転換による経費節減を実施した。 ■仕業や勤務シフトの作成等をデジタル化することにより作業効率の向上による人件費の抑制と、効率的な運行を実施し、運送コストの削減を実施した。 ■車輛運用の見直しによつ効率化を実施し、効率的な運行を実施することで運送コストの削減を行った。

地域間幹線系統 事業評価シート

1 系統の概要

事業者名		系統名	起点	主な経由地	終点
富士急モビリティ株式会社		十里木線	御殿場駅	須山	十里木
系統キロ程		関係市町			
19.0	km	御殿場市	裾野市		

2 評価結果

項目		評価のポイント		実績	評価 点数	(参考) 前年度実績
補助基準（40）		国庫補助基準を満たしたか		—	—	—
	運行回数 （10）	運行回数 3 回/日以上を確保したか		5.8 回/日	10	5.8 回/日
	輸送量 （30）	実績輸送量15人/日以上を達成したか		25.5 人/日	30	25.4 人/日
実施状況（40）		効果的に実施されたか		—	—	
	収支率 （20）	収入を確保できているか		50.3 %	20	47.6 %
	乗車人員 （20）	乗車人員の実績は計画を上 回ったか	実績	48,305 人	15	46,806 人
			計画	46,806 人		36,971 人
幹線性・広域性（20）		幹線としての役割を果たしたか		—	—	—
	ネットワーク構成 （10）	他の系統と乗換可能なアクセ ス拠点（バス停数）はあるか （詳細別記）	拠点	1 箇所	8	1 箇所
			乗継バス停	6 箇所		6 箇所
	広域トリップ状況 （10）	市町（H13.3.31現在の市町）跨ぎの移 動はされているか		63.0 %	10	33.8 %

補助基準	40 /40
実施状況	35 /40
幹線性・広域性	18 /20
合計	93 /100

評価指標
A

- A : 幹線として優れた役割を果たしている
- B : 幹線として適した運行となっている
- C : 改善に努力を要する
- D : 見直しの検討を要する

3 説明事項

項目	内容
主な運行目的	裾野市と御殿場市を繋ぐ広域系統。 沿線には工業団地や集合住宅地が存する。特に沿線の裾野市十里木地区・須山地区は、生活圏を御殿場市までとすることから、同地区からの広域の生活移動（通勤・通学・通院・買い物）が多く存する。また、十里木地区から須山小学校への通学や御殿場市板妻地区の通勤・通学の地域内移動のニーズを満たす役割も担っている。 シーズン期には愛鷹山ハイキングの観光移動にも供する。
ネットワーク 構成の詳細	（拠点） J R 御殿場駅・・・J R 御殿場線
	（乗継ぎバス停） 森の腰・・・（自社）三島方面 大樺・・・（自社）神場方面 板妻・・・（自社）神場方面、（自社）印野方面 須山・・・（富士急シティバス）裾野方面 富士サファリパーク・・・（富士急静岡バス）富士、（富士急シティバス）三島方面 原里支所…（自社）ぐみ沢、御殿場西高校方面
公共施設・ 拠点施設との アクセス状況	（バス停から半径500m以内に存在する主な公共・拠点施設） 【公共施設】 フジ虎ノ門病院、東部病院、渡辺整形外科、原里中学校、原里小学校、原里支所、板妻 駐屯地、須山支所、須山小学校、裾野富士山資料館、 【拠点施設】 クラブウ、ピオパーク、富士裾野工業団地、東海ゴム、J A なんすん、須山浅間神社、 富士サファリパーク、十里木別荘地、愛鷹山登山口

4 事業者の取組

項目	内容
増収策	■ 小学校・幼稚園等での、乗合バスの乗り方教室を実施することで、乗合バス利用のきっかけづくりを近隣市町10校にて実施した。 ■ 沿線の学校や企業の通勤時間や近隣バス会社や公共交通機関との接続時間を考慮し、柔軟なダイヤ改正を実施し使いやすい公共交通の構築を行った。 ■ バス停留所の時刻表や配布用時刻表のデザインを変更し、幅広い世代が見やすいものへ変更し、利用促進を図った。 ■ リアルタイム混雑情報提供機能付バスロケーションシステムを導入し、利用しやすいバス環境を整備した。
費用削減策	■ 燃料、オイルその他修繕部品等、車両購入の購入時は富士急グループ全体での一括仕入れ実施や比較購入の徹底を図りコスト削減を実施した。 ■ EVバスを導入し、動力源の転換による経費節減を実施した。 ■ 仕業や勤務シフトの作成等をデジタル化することにより作業効率の向上による人件費の抑制と、効率的な運行を実施し、運送コストの削減を実施した。 ■ 車両運用の見直しによつ効率化を実施し、効率的な運行を実施することで運送コストの削減を行った。

地域間幹線系統 事業評価シート

1 系統の概要

事業者名	系統名	起点	主な経由地	終点
富士急モビリティ株式会社	河口湖線	河口湖駅	旭日丘	御殿場駅
系統キロ程	関係市町			
36.9 km	御殿場市	小山町		

2 評価結果

項目	評価のポイント	実績	評価 点数	(参考) 前年度実績
補助基準 (40)	国庫補助基準を満たしたか	—	—	—
運行回数 (10)	運行回数 3 回/日以上を確保したか	3.0 回/日	10	3.0 回/日
輸送量 (30)	実績輸送量15人/日以上を達成したか	23.4 人/日	30	23.1 人/日
実施状況 (40)	効果的に実施されたか	—	—	—
収支率 (20)	収入を確保できているか	82.8 %	20	80.5 %
乗車人員 (20)	乗車人員の実績は計画を上 回ったか	実績	20	51,429 人
		計画		27,133 人
幹線性・広域性 (20)	幹線としての役割を果たしたか	—	—	—
ネットワーク構成 (10)	他の系統と乗換可能なアクセ ス拠点 (バス停数) はあるか (詳細別記)	拠点	10	3 箇所
		乗継バス停		11 箇所
広域トリップ状況 (10)	市町 (H13.3.31現在の市町) 跨ぎの移 動はされているか	80.0 %	10	76.8 %

補助基準	40 /40
実施状況	40 /40
幹線性・広域性	20 /20
合計	100 /100

評価指標
A

A：幹線として優れた役割を果たしている

B：幹線として適した運行となっている

C：改善に努力を要する

D：見直しの検討を要する

3 説明事項

項目	内容
主な運行目的	静岡、山梨両県を結ぶ唯一の広域系統であり、地域における一次交通として機能する。 県間を跨ぐ国道138号の通行が運行の大部分を占め、沿線には学校・病院・企業などの生活拠点ほか商業施設も多く存する。 主に山梨県から静岡への越県通学者や県内においては小山町と御殿場市市内の生活の足として利用される。土休日・繁忙時は観光客の移動を補完する役割も担うことから、地域間・地域内の活性化にも寄与する。 走行ルートは御殿場市・小山町・山梨県山中湖村・富士吉田市・河口湖町の2県5市町村に跨る大規模路線である。
ネットワーク 構成の詳細	(拠点) J R 御殿場駅・・・J R 線 富士山駅・・・富士急行線 河口湖駅・・・富士急行線
	(乗継ぎバス停) 湯沢・・・(自社) 小山方面、(箱根登山バス) 箱根方面 ぐみ沢・・・(自社) チアーズガーデン線 図書館前・・・東京行高速バス、横浜行高速バス 須走浅間神社・・・小山町内コミュニティバス (すばしりコース) 山中湖旭日丘・・・(富士急バス) 平野線 山中湖村役場前・・・新宿行高速バス 富士山山中湖 (ホテルマウント富士入口)・・・長池方面、忍野方面、新宿行高速バス 忍野入口・・・(富士急バス) 内野方面、(京王バス) 新宿行中央高速バス 横町・・・富士吉田市内コミュニティバス (新倉～熊穴団地～市立病院コース) 警察署前・・・富士吉田市内コミュニティバス (新倉～熊穴団地～市立病院コース) その他5箇の停留所が小山町デマンドバス乗降ポイントに指定。
公共施設・ 拠点施設との アクセス状況	(バス停から半径500m以内に存在する主な公共・拠点施設) 【公共施設】 御殿場市立図書館、御殿場西高校、御殿場市民会館、須走支所、自衛隊富士学校、須走小学校、須走中学校、山中湖村役場、山中湖郵便局、山中湖小学校、山中湖中学校、自衛隊北富士駐屯地、富士吉田市立病院、富士吉田市立看護専門学校、上吉田コミュニティセンター 【拠点施設】 J A 御殿場、キリンディスティラリー、ケーズデンキ、J A 須走、須走浅間神社、道の駅すばしり、天恵、日大セミナーハウス、森の駅旭日丘、文学の森公園、ファナック、忍野八海、さかな公園、忍野温泉、道の駅富士吉田、北口本宮富士浅間神社、都留信用組合、富士急ハイランド、渡辺整形外科

4 事業者の取組

項目	内容
増収策	■小学校・幼稚園等での、乗合バスの乗り方教室を実施することで、乗合バス利用のきっかけづくりを近隣市町10校にて実施した。 ■沿線の学校や企業の通勤時間や近隣バス会社や公共交通機関との接続時間を考慮し、柔軟なダイヤ改正を実施し使いやすい公共交通の構築を行った。 ■バス停留所の時刻表や配布用時刻表のデザインを変更し、幅広い世代が見やすいものへ変更し、利用促進を図った。 ■リアルタイム混雑情報提供機能付バスロケーションシステムを導入し、利用しやすいバス環境を整備した。
費用削減策	■燃料、オイルその他修繕部品等、車両購入の購入時は富士急グループ全体での一括仕入れ実施や比較購入の徹底を図りコスト削減を実施した。 ■EVバスを導入し、動力源の転換による経費節減を実施した。 ■仕業や勤務シフトの作成等をデジタル化することにより作業効率の向上による人件費の抑制と、効率的な運行を実施し、運送コストの削減を実施した。 ■車両運用の見直しによつ効率化を実施し、効率的な運行を実施することで運送コストの削減を行った。

地域間幹線系統 事業評価シート

1 系統の概要

事業者名	系統名	起点	主な経由地	終点
富士急バス株式会社	河口湖線	河口湖駅	膳棚 旭日丘	御殿場駅
系統キロ程	関係市町			
37.9 km	御殿場市	小山町		

2 評価結果

項目	評価のポイント	実績	評価 点数	(参考) 前年度実績
補助基準 (40)	国庫補助基準を満たしたか	—	—	—
運行回数 (10)	運行回数 3 回/日以上を確保したか	10.0 回/日	10	10.0 回/日
輸送量 (30)	実績輸送量15人/日以上を達成したか	79.2 人/日	30	73.2 人/日
実施状況 (40)	効果的に実施されたか	—	—	—
収支率 (20)	収入を確保できているか	79.5 %	20	75.0 %
乗車人員 (20)	乗車人員の実績は計画を上 回ったか	実績 298,858 人 計画 116,085 人	20	230,566 人 101,794 人
幹線性・広域性 (20)	幹線としての役割を果たしたか	—	—	—
ネットワーク構成 (10)	他の系統と乗換可能なアクセ ス拠点 (バス停数) はあるか (詳細別記)	拠点 3 箇所 乗継バス停 11 箇所	10	3 箇所 11 箇所
広域トリップ状況 (10)	市町 (H13.3.31現在の市町) 跨ぎの移 動はされているか	89.2 %	10	90.2 %

補助基準	40 /40
実施状況	40 /40
幹線性・広域性	20 /20
合計	100 /100

評価指標
A

- A : 幹線として優れた役割を果たしている
B : 幹線として適した運行となっている
C : 改善に努力を要する
D : 見直しの検討を要する

3 説明事項

項目	内容
主な運行目的	静岡東部と山梨県を結ぶ唯一の広域系統であり、地域における一次交通として機能する。 県間をまたぐ国道138号の通行が運行の大部分を占め、沿線には学校・病院・企業などの生活拠点ほか商業施設も多く存する。 主に山梨県から静岡県への越県通学者や県内においては小山町と御殿場市市内の生活の足として利用される。土休日・繁忙期は観光客の移動を補完する役割も担うことから、地域間・地域内の活性化に寄与する。
ネットワーク 構成の詳細	(拠点) 御殿場駅・・・J R線 富士山駅・・・富士急行線 河口湖駅・・・富士急行線
	(乗継ぎバス停) 湯沢・・・小山方面、箱根方面 ぐみ沢・・・チアーズガーデン線 図書館前・・・東京行高速バス、横浜行高速バス 須走浅間神社・・・小山町内コミュニティバス(すばしりコース) 山中湖旭日丘・・・平野線 山中湖村役場前・・・新宿行高速バス 富士山山中湖(ホテルマウント富士入口)・・・長池方面、忍野方面、新宿行中央高速バス 忍野入口・・・内野方面、新宿行中央高速バス セメ草・・・富士吉田市立病院方面 横町・・・富士吉田市内コミュニティバス(新倉～熊穴団地～市立病院コース) 消防署前・・・富士吉田市内コミュニティバス(新倉～熊穴団地～市立病院コース)
公共施設・ 拠点施設との アクセス状況	(バス停から半径500m以内に存在する主な公共・拠点施設) 【公共施設】 御殿場市立図書館、御殿場西高校、御殿場市民会館、須走支所、自衛隊富士学校、須走小学校、須走中学校、山中湖村役場、山中湖郵便局、山中湖小学校、山中湖中学校、自衛隊北富士駐屯地、富士吉田市立病院、富士吉田市立看護専門学校、上吉田コミュニティセンター 【拠点施設】 J A御殿場、キリンディスティラリー、ケーズデンキ、J A須走、須走浅間神社、道の駅すばしり、日大セミナーハウス、森の駅旭日丘、文学の森公園、ファナック、忍野八海、さかな公園、忍野温泉、道の駅富士吉田、北口本宮富士浅間神社、都留信用組合、富士急ハイランド、渡辺整形外科

4 事業者の取組

項目	内容
増収策	(1) 地域との連携や自社スケールを活用してセールスを実施。新規利用者を取り込む。 ①関係自治体と連携してバスの乗り方教室を実施する。 ②バス利用へのきっかけを作る。 ア. 幼稚園・小学生及び、高齢者を対象としたバス乗り方教室を実施する。 イ. バス車内におけるイベント企画(幼稚園・学生個展やクリスマス装飾など)や車内映像モニターの活用による地域施設の紹介などを検討・実施する。 ③公共交通の最適ルートをWEBで情報発信しているコンテンツプロバイダや観光情報サイトに参画(露出)し、利用者の取り込みを図る。 ④自社スケールメリットを活かし、テレビや新聞など大型パブリシティを獲得していく。 ⑤各自治体・学校施設・旅行会社と連携し、EVバスを利用したSDGsの取り組みを伝え、バス利用の促進を図る。 (2) 利用環境の改善により利用促進を図る。 ①低床バス比率を高め、高齢者など交通弱者のニーズに応え利用促進を図る。 ②地域別のバスマップの作製。 ③バスロケーションシステムを利用し、バスの現在地・遅延情報を公開することで利用者の利便性向上を図る。 (3) 商品造成 グループのスケールメリットを活かし、関係施設との企画乗車券を作成し、関係施設とのタイアップ効果によるバス利用の促進を図る。
費用削減策	(1) 運行の効率化(経費削減)を図るため、路線の再編、減便等の検討を行う。 (2) グループのスケールメリットを活かした一括購入による仕入価格の減少やエコドライブを推進し、経費削減を図っていく。 (3) 軽油燃料・オイル・タイヤの仕入れ価格について、引き続き本社部門での定期的見直し(相見積)を行う。 (4) 車両購入や比較的金額が多い備品類等についても比較購入を実施し、固定経費の削減を図る。 (5) エコドライブ推進(アイドリングストップ運動)により、軽油の使用量削減と環境保全に努める。 (6) 車両の計画的更新による燃料効率の向上と、修繕費の削減に努める。 (7) EVバスでの運行を行うことで燃料使用量を削減する。 (8) ラッピングバス等付帯収入の確保により、収支改善を図る。